

Title	有職故實(河緒實英著, 塙書房發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1961
Jtitle	史学 Vol.34, No.1 (1961. 7) ,p.119- 120
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19610700-0119

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

歴史的價値たる古代、キリスト教、自然法、ヒューマニズム、合理主義の遺産たる基本的人權が存する（なお本書収録の論文「全體主義國家の現象」で十九世紀の懷疑主義、相對主義が全體主義に貢献したことが指摘されている）。この點更めてヨーロッパの自由の傳統の根強さを感じしめる。平等は必ずしも均一化を意味しないであろう。とはいえ、なお若干問題とすべき點があるように思われる。それを簡単に述べると、

一、平等化は確かに均一化の危険を含むがそのことは必ずしも人間の同格化の否定を意味しない。著者は均一化の弊害を力説する餘り、平等の觀念を過度に蔑視した如く思われる。著者が説く如く、自由と平等とは「止揚し難き緊張關係」にあるにせよ、ハイマンの主張する如く、緊張の除去でなく、相互關係にある動的な二極間の平衡への努力がなされねばならない。

二、著者は問題を専ら個性の喪失や政黨内部のそれに限つて論じているが、現代の大衆民主主義の重要な問題として、E・H・カーなどにより指摘せられたデモクラシーとナショナリズムとの結合とその解決の問題に觸れてもらいたかつた。

三、これは無理な要求であろうが、著者は歴史家でなく、社會科學者であるから十九世紀、二十世紀民主主義の把握は優れて類型的である。この點で歴史家である我々は、十九、二十世紀史、なканずく選舉權の問題をめぐる歴史をより具體的、個性的に把握する必要がある。（東畑隆介）

批評と紹介

有職故實

（河鐸實英著）
塙書房發行

近年、懷古思潮から再び古典の文化史的研究が盛んになり、この補助學科として有職故實學を一通り修得する必要は云うまでもない。この有職故實は從來、特種階級に永く相傳の祕法として保存のために公開が遅れ、今後も研究を重ねて明かになる學問で、初學者の手に手ごろの編著はすくない。

今次、舊公家の出身で、昭和女子大學の河鐸實英教授によつて好著が印行された。

有職は初め有識の文字で宮廷の儀式故事に精通の人の意であつたが、何時の頃にか有職故實の文字に變り、その範圍も擴大され、武家時代に入つては武家特有の儀式慣習が公家ものから漸次發達し、自ら相違するので、近世に至つて公家の故實に對して武家故實と云うものが成立した。しかし有職故實と云えば主として公家ものを中心としている。

この研究は、先ず文献によつて行事の次第作法を知り、實物に接して服飾の種類とその着け方を習うことであるが、この行事に關する書籍では古く西宮記、江家次第、公本根源等があるが、今日初步の學徒では其の記述内容を直に理解するは困難であり、更に實物は多く散逸して遽に接し見聞することは容易で

ないのである。

このようなときに、河幡教授の著書の印行は學界に貢献し、同學復興に役立つたは勿論である。筆者は若い頃に山科流の衣紋道を幾分心得、また即位の大禮等に奉仕したので、記述内容にいささか不備はあつても、誤りと考えられるところはないので、初學の人に肯て購讀を勧めるものである。叙述は左の綱目である。

序説—官職位階—服飾—甲冑—行事—重要な典例—殿舎—
調度—乗物—娛樂武技

なお、附録として

重色目表—公家一覽表—參考文献目錄—索引

序でにこの有職故實學は宮廷の行事を中心に官職服飾調度の類等を研究する學問で、自ら宮廷史の主要な部門であれば、これを幾分なりとも習得して、始めて宮廷史の概略を知得し、公家の日記更に源氏物語の記述が判るのである。戦前に既に宮内省圖書寮では、有職故實調査部を設けて、故櫻井秀博士、著者、等がこの調査に當り、史料も相當に蒐集整理されつゝあつたが、終戦によつて解散のまゝとなつた。それでこれをどこかでか復興し、この事業を連續し、漸次に圖版と共に平易に記述印行を望むものである。

(武田勝藏)

彙 報

第九回早慶連合史學會

早慶連合史學會も第九回を迎えたが、本年からは春季に行うことになり、昭和三十六年六月二十四日午前九時三十分より早稲田大學小野記念講堂において開催された。

〔研究發表〕

メロヴィング時代教會と社會

野口洋二(早大)

ドンソニアン青銅器文化の起源地域

近森 正(慶大)

西夏の河西進出について

長澤和俊(早大)

オックスフォードのアリストテレス禁令について

坂口昂吉(慶大)

〔公開講演〕

近世貨幣史研究の課題

中井信彦(慶大)

中井氏の公開講演は午後一時半から早大荻野三七彦教授の司會で行われたが、その要旨は追つて本誌上に掲載される予定である。なお終了後大隈會館においてパーティが開かれ、兩校の出席者の交歓が行われた。